

関税の影響

夏休み初日、アメリカとの関税率が15%となるというニュース速報を見ました。最近、アメリカの大統領であるトランプ氏が相互関税を導入し、日本には25%の関税がかけられるというニュースがよく報じられていたのを思い出しました。25%で実行されると日本経済に大打撃となるようで、少し良かったなと思いました。でも僕の生活にどのような影響があるのか気になったので調べることにしました。また、消費税についてはニュースでもたくさん取り上げられており、僕も知っていましたが、今回の相互関税がどのようなものなのかわからなかったなので、いい機会だと思い調べてみることにしました。

関税というのは輸入品にかかる税金で、自国の産業を守るために課される税金のようです。実際に貿易の自由化により安価な外国の商品が入ってきて、日本の第一次産業などが危機にさらされていると学校の授業で習いました。例えば昔、オレンジが自由貿易になった時、みかん農家は大打撃を受けたそうです。また相互関税とは、同じ関税率を互いに課するという国同士の合意のこのようです。

つまり関税率が高くなると輸入品の値段が高くなります。日本は食料品やいろいろなものをアメリカから輸入していると学校で習ったので、食料品の値段が高騰しそうです。例えば、小麦は6割近くをアメリカから輸入しています。また家畜の餌なども輸入しているので、お肉の値段も今以上に上がるでしょう。

ところで関税は日本の基盤産業である自動車産業にもかけられるようで、これによってドルと円の為替にも影響が出るそうです。

相互関税のデメリットばかり目につきますが、僕はこれを利用するのがいいと思います。日本の食料自給率は先進国7カ国において最低です。これは、アメリカなどから安い作物が輸入され、日本の農業が衰退しているからです。そこで、この相互関税を機会に国産の食べ物へ目を向けるきっかけを持てば良いと思います。いつも何気なく食べている

外国産のものと国産のものを比べてみるのも良いと思います。また、国産のものを選ぶことはフードマイレージの削減にもつながり、地球温暖化の主な原因である二酸化炭素の排出量を抑えることができると思います。

今回調べてみて、関税が僕の生活に広く関わっていて、いろいろな要因が複雑に絡み合っていることが分かってきました。さらに、世界経済にも大きな影響を与えることに驚きました。15%という今回の合意ですが、日本がアメリカに多額の投資を行うという条件などもあるそうなので、これからの関税の行方に注目していきたいと思います。

最後に、関税のニュースに関連して、今後アメリカのお米が、今以上に日本の市場に参入してくるそうです。食べ比べもしたいですが、僕の祖父母は、元米農家なので、やはり日本米を応援したいです。